

天草の自然通信

天草の化石

天草の大地には1億年前からの地殻変動の歴史が刻み込まれており、ここで見られる風景や生き物などから学べるのがいっぱい。天草諸島全体が「海にうかぶ博物館」。身近で当たり前だと思っていた景色から、大地の不思議を学んでみましょう。

問い合わせ先：ジオパーク推進室（天草宝島国際交流会館ポルト内）☎096778

◆採石場跡地の断層と化石層

御所浦町の採石場跡地は、採石によって崖になった場所で、約1億年前の地層が表れています。地元のガイド団体が提供するクルージングを利用すると、海上から地層のずれ（断層）を観察でき、化石採集も体験することができます。

御所浦白亜紀資料館近くの化石採集場は、この採石場跡地の崖から自然に落ちた石を運び込んで利用しています。浅い海に生息していた二枚貝の化石がよく見つかると、アンモナイトやサメの歯の化石が発見されることも。

化石採集体験については、御所浦白亜紀資料館（☎09672325）に問い合わせください。



▲採石場跡地の断層

▶二枚貝の化石
(プレトリゴニア)



▲植物食恐竜の足跡化石

▶肉食恐竜の歯の化石

◆軍ヶ浦海岸恐竜化石発見地

化石は御所浦町だけではなく、天草各地で見つかっています。天草町軍ヶ浦の海岸では、平成9年に植物食恐竜の足跡と歯の化石が発見され、平成26年にも大型肉食恐竜の歯の化石が発見されました。ともに、約8,000万年前の恐竜と推定されています。近隣の御船町や鹿児島県、長崎県からも同時代の恐竜の化石が発見されており、九州西部に恐竜が生息していたことを裏付けるものです。発見場所の詳細は現地保護のため明らかにしていませんが、今後も、重要な発見が期待されます。



◆櫛島のアンモナイト産地

上天草市龍ヶ岳町の櫛島も化石がよく見つかる場所です。ここには約8,500万年前の地層が分布しており、当時生息していたアンモナイトやイノセラムス（二枚貝）の化石が主に見つかります。過去には九州初となるモササウルス類（海に生息していた大型の爬虫類）の歯の化石も発見されました。海岸沿いのため、観察するときは潮の時間を確認して出かけてください。雲仙天草国立公園の特別地域のため、許可なく化石を持ち帰ることはできません。



▲二枚貝の化石（イノセラムス）

◀モササウルス類の復元模型
(御所浦白亜紀資料館)



子どもたちが安心できる居場所を作りたい

いこいスペース∞こあ まるちゃん家
(北原町)
☎070(7532)1098

学校が終わった午後4時過ぎ。何人もの子どもたちが「ただいま」と言っ集まってくる場所がある。「いこいスペース∞こあ まるちゃん家」だ。

代表を務める木原成美さんは、以前から仲間と制服や学用品の取り組んできた。その中で、帰宅後に1人で過ごしている子どもたちがいることを知り、子どもたちが安心して過ごせるようにできないかと思った。

昨年5月、賛同してくれたメン

バーらと障がい者支援施設星光園地域支援センターを借り、子どもから高齢者まで多世代が交流できる場としてまるちゃん家をオープンさせた。

活動は毎週水曜日。毎回40人ほどが集まり、宿題をしたり友達と遊んだりして過ごす。まるちゃん家では夕飯もあってみんなで食べる。食材はすべて地域の人や協賛企業が提供してくれたものだ。



▲まるちゃん家の片付けに集まったボランティアスタッフ（5月29日）

手伝ってくれる高校生や調理をしてくれるスタッフも含め、まるちゃん家は大きな家族だから。

そんな木原さんたちスタッフは、まるちゃん家1周年を記念して、7月14日に専門家を招いて「あまくサン子ども未来サミット」を開催する。

地域で子どもを見守る。そんな人たちが、まるちゃん家にはたくさん集まっている。

「最近、配膳を手伝ってくれたり、メニューを黒板に書いてくれたりと子どもたちが自主的にお手伝いしてくるようになった」と嬉しそうに話す木原さん。ただ、活動継続には、スタッフの確保に資金調達など課題も多い。

「でも、子どもたちや親御さんからの『ありがとう』って感謝の言葉が次の原動力になってるんです。ボランティアで



▲地域の人や企業から食材の提供を受け作る夕飯



▲学年関係なく仲良くなれる場



▲ゲストティーチャーを招いた教室。今回のテーマは交通安全